郷土史 てしね
第 222 号
令和 8 年 10 月 17 日発

［令和8年9月19日　定例会発表要旨］

「手稲を歩いて見つけた気になるあれこれ」

手稲郷土史研究会会員　菊池　博行

私は手稲に住んで８年ほどになります。区民としてはまだまだ新参者ですが、日々手稲の街を歩いて見つけた歴史の痕跡を紹介したいと思います。

・水田の痕跡～用水路



富丘の街に水の流れる用水路があります。アパートや住宅の隙間を縫うように水が流れています。水源を探ってみるとどうやら石垣の隙間から水が出てきているようで、これは湧き水ではなかろうか！？この水路の昔の状況を調べると、どうやらこの水路の周りだけ水田のようでした。この湧き水を利用したものだったのかもしれません。

もう一か所、曙地区の札幌運転所にほど近い場所にも水路跡がありました。こちらは河川の流路変更などにより今は水が流れていませんが、しっかりとコンクリート護岸などが見て取れます。また、札幌運転所の引き込み線や、函館本線の線路の下にはボックスカルバートが残っておりこちらからもかつての用水路の姿が見て取れます。

・１００年前のレール

稲穂駅を降り立つと目の前には札幌運転所が広がります。山口街道踏切の名を冠した踏切に歴史を感じつつ、札幌運転所の開設に伴って架け替えられた道路を曙方面に向かって歩きますと、古いレールを再利用した柵が幾つかあります。戦前に作られたレールは戦前鋼と呼ばれ駅の支柱などに再利用されることが多いのです。この稲穂にあるレールの柵もよく探すと刻印が残っていました。見やすく残っているものでは 1925 年クルップ製がありました。読み取りずらいものですが 1907 年バロウスチール製らしきものもありました。札幌市内では古い駅は建て替えられたりしてこのような古いレールはなかなか残っておりませんので貴重な存在かもしれません。

・星置駅に残る旧道跡

星置駅は昭和 60 年代に新設された比較的新しい駅です。北口と南口で非常に高低差のある駅です。この星置駅、駅ができる前には道路がありました。崖に沿うように坂道があり、手稲山口地区に続く道路であったようです。坂道を降りたところには踏切もあったとのことでした。ホームに出て崖をよく見てみると、少し平場が見て取れますし、その平場に沿って電柱があります。これがかつての道路跡でしょう。さらに古い擁壁も残っておりここに道路があったことが分かります。まだ道路が現役だった頃、夏にはサッポロスイカを満載したトラックがこの坂道を一気に駆け上がり、

坂を上がりきったところのカーブでよくスイカを落としていった、なんて言う想い出話にも出会うことができました。

・住宅街に残る牧草地

手稲区に限らず札幌市内にはかつてとても多くの牧場がありました。住宅街の中にサイロが残っている場所も多くあります。しかし、手稲区には住宅街の中に牧草地が残っている場所もあります。新発寒地区にあるその牧草地は今なお牧草を生産しています。周りは新しく建てられた住宅街になっていて、その牧草地だけが囲まれるように残っています。6 月の 1 番草を刈りこむ日、周りの新興住宅街の子供たちが興味深げに牧草の刈込み作業を眺めています。

・地図に残る旧国道

手稲駅南口の目の前を通るのは「二十四軒手稲通」という通りです。中には「旧国道」と言われているのを聞いたことがある方もいるのではないでしょうか？実は現在の国道は昭和 9 年に架け替えられていて、それ以前は現在の二十四軒手稲通が国道でした。その名残で旧国道と呼ぶ方がいるのです。富丘の辺りで旧国道は分岐していました。そして二十四軒手稲通りに合流するのですが、二十四軒手稲通りに合流する場所がかつてはＹ字路となっていて、旧道の形が残っていたのですが、現在は道路が架け替えられてしまい、かつての分岐していた Y 字路の姿はなくなってしまいました。しかし、手稲駅の駅地図には当時の旧国道の線形や二十四軒手稲通りに合流するＹ字路が未だ描かれているのです！手稲駅に限らず、駅地図にはかつての姿が残っていることがあります。今はスマホで地図を見る時代になり、こういった駅の地図などはすっかり見る機会も減ってきたかと思います。しかし、今一度このような地図に目を向けると、かつての姿に出会うことができるかもしれません。

「大人の一日散歩」

前回悪天候のため中止になった「大人の一日散歩」が、令和８年９月１８日(金)天候に恵まれ実施されました。参加者２０名のほとんどが９時に手稲駅に集まり、９時７分発の電車で札幌駅まで行き、残りの人と集合し、A班（説明　梶本）とB班（説明　札幌観光ガイドの会　山田さん）に分かれ、札幌駅北口を出発し「清華亭」を目指しました。



途中、硝子工場跡、ビル内にある「石川啄木」像、東洋カメラの軟石の蔵、公園にある「啄木の歌碑」等の説明を受け「清華亭」に到着しました。

次に、北海道大学構内に入り、現在生協の建物の位置に、旧南部藩の学生寮「巌鷲寮」があったとの説明、「古河講堂」、クラーク像、最近できたヤマザキマリが名誉館長を務める「こども本の森」図書館、教育学部にある地層のサンプル等を見て、「総合博物館」に到着しました。

「総合博物館」では「北大の恐竜たち」の展示をはじめ、自由行動で参観しました。

その後、農学部のポプラ並木、新渡戸稲造の像、工学部の「大野池」等を見てイチョウ並木の前にて解散しました。

アンケート結果で、皆さん満足していただき、次回も企画してほしいとの意見でした。

「歴水会」からおしらせ

「歴水会」(カラオケの会)最年長の平木重雄さんが、高市早苗内閣総理大臣より9月15日の「敬老の日」に表彰をされました。
おめでとうございます。



「歴水会」は、参加者の高齢化を考慮し、12月～3月の4カ月間は休会に致します。

「ていぬの部屋」展示　第3弾

10月1日より、手稲区役所1階の「ていぬの部屋」の展示を、札幌市博物館活動センターの協力を得て、「手稲山の風穴」に変更いたしました。 ぜひご覧になって下さい。



日帰り研修旅行

10月24日(土)に三笠市の炭鉱跡等を巡る「日帰り研修旅行」を行います。
10月7日現在で、41名の参加申し込みがございました。

【次回定例会】　令和8年11月21日(土)　13時30分～　区民センター3階視聴覚室

◆　発表内容　「手稲の住宅地に残された貴重な植物」
(有)布緑化計画　代表取締役　　笠　康三郎　様

手稲郷土史研究会 会報「郷土史ていね」第222号　　令和8年10月17日発行
発行責任者：沖田紘昭（手稲郷土史研究会 会長）　　編集：伊藤政克・駒ヶ嶺智史
✤006-0818　札幌市手稲区前田8条11丁目4-5　　林俊一　方　手稲郷土史研究会
*TEL 090-3381-4994 *FAX 011-682-9874
✤メールアドレス　teinenorekishi@gmail.com　担当　菊池　博行